みるしる！ろいやるん！

所沢ロイヤルの郷 『トコろん ついに完成！！』

コロナ禍で、以前のようにみんなで取り組んでいた活動に制限ができ、一緒に触れ合って活動するという事が難しくなってきた現状がありました。そんな中「コロナに負けず、みんなで力を合わせて何か一つのもの作り上げたい」という気持ちで取り組んだのが初めてのロールピクチャーでした。絵の題材は、みんな馴染みのあるキャラクターで、かわいい所沢市のマスコット「トコろん」に決定しました。

作業は紙で巻いたパーツを作って、台紙に貼るというもの。パーツの総数は5000個を超えました。少しずつ仕上がっていく作品を日々見ることが楽しく、励みにもなりました。

「これ、たのしいわ。指先のリハビリになるわね」と、積極的に多くの方が参加し素敵な作品が出来上がりました。

それぞれ自ら出来る作業を見つけ、力を合わせて完成したトコろん。作品を見る度にゆっくりとその時間が思い出されます。

〈文/地域密着型通所介護 所沢ロイヤルの郷 介護福祉士・田島〉

お知らせ　感染対策強化月間を継続!!

1月以降も当面の間、感染対策強化月間を継続していきます。

面会をはじめ、様々な事を制限させて頂いております。詳しい情報は、ホームページ等でご確認下さい。

編集後記

新年が明け、また新しい年がやってきました。昨年、一昨年と大変な年が続き、新型コロナウイルスと向き合いながらの生活も3年目を迎えます。新しい生活様式や、様々な対策によって、少しずつではありますが、日常の楽しみや希望の光が見え始めたのではないかと思います。今年は、より希望と活力に溢れた年になることを願っています。

所沢ロイヤル病院では、コロナ禍で開催することの出来なかった地域交流会が、昨年11月に開催されました。これまで地域の中で担ってきた役割に加え、コロナ禍での地域からの相談に対しても新しい役割が求められるようになっていきます。

「困った時のロイヤル病院」として、本年も宜しくお願い申し上げます。

（文/ケアワーカー・大和久）

発行　医療法人 恭仁会 所沢ロイヤル病院　広報委員会 はなみずき編集部
〒359-1152 埼玉県所沢市北野三丁目1番地11　TEL:04-2949-3385　FAX:04-2949-7872

TOKOROZAWA LOYAL WAM TOWN
vol.65
令和4年1月1日発行

所沢ロイヤル病院

はなみずき

病院理念

私たちは安全で良質な医療、
心のこもった看護・介護、地域社会との連携を目指します。

新年のご挨拶

金子 正二（カネコ ショウジ）院長

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、コロナウイルス感染拡大期にあり、ニュースの新規感染者数に一喜一憂し、緊急事態宣言も長く続いてSTAY HOMEの一年となりました。ワクチン接種、新薬の開発などもあり、コロナ感染は下火になっています。しかしヨーロッパでは、再び感染が増加しており油断できません。今後はWITHコロナの中で、いかに感染リスクを減らして行くかが、重要になってきます。

ワクチン接種、コロナ治療後の患者さんの受け入れなど、この地域に根差した療養病院としてできる限りの地域貢献を行ってまいりました。今後もしっかり行ってまいります。

所沢ロイヤル病院は、地域に信頼される療養型病院として回復期、慢性期を担う病院としてこの地域で貢献して行く責務があると思います。職員全員がその覚悟で頑張っております。本年も皆様方のご指導、ご支援をよろしくおねがいします。

新しい年が、希望に満ちた年であるよう祈ります。

HAPPY NEW YEAR!!

吉村 紀代（ヨシムラ ノリヨ）看護部長

新年あけまして、おめでとうございます。

4月に看護部長を拝命し、9か月が経過しました。今年は、新型コロナウイルスのワクチン接種に追われる日々でした。そのような中でも、看護部は、「一日でも早く、患者様とご家族の面会を叶えたい」と日々願い、安全に面会できる方法を模索してきました。現在は、まだ予約制という制限はありますが、面会が行えているということが、私たちのケアのよりどころにもなっていると実感しています。

また、新型コロナウイルスが蔓延する中で、「どのようにすれば患者様、ご家族が安心と満足を感じる入院生活が送れるのか」ということも看護部では考えた1年だったと思います。感染予防を十分行い、患者様の命を守ることは私たち組織の使命です。それに加え、看護部では「寄り添う」という言葉を行動化すること、さらには、「快ち良さ」を考えた行動をすることを心がけ、これからも患者様、ご家族、そして看護部職員も満足するケアを実践したいと願っています。

皆様から愛される組織、病院、看護部を目指してまいりたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

加藤 芳浩（カトウ ヨシヒロ）事務長

新年あけましておめでとうございます。

昨年はCOVID-19により人と会う機会や時間が制限され、握手することを躊躇するようになり、以前のようなコミュニケーションが取りづらく如何に人と人とがつながれるのかを考え、また人と人のつながりの大切さを再認識させられました。

当院では昨年10月に医療機能評価機構による3回目の更新審査を受審いたしました。審査内容は、医療の質の向上と信頼できる医療の確保を目的として第三者の専門家により中立的、科学的、専門的な見地から評価していただきました。医療は日進月歩で変化しているため、第三者による評価は、当院の質の向上への積極的な取り組みに対する方向性を確認できるとともに新たな質の向上への気づきがありました。

気づきの中で、新しい生活様式が定着する中で地域にとって何が必要か、何ができるのかをしっかり考え、新たな取り組みを恐れず、スピード感をもって行うことだと考えさせられました。

今年も、さらに充実した医療サービスを提供できるよう継続して取り組んでまいります。当院の取り組みにご理解とご支援をお願いするとともに、本年が皆様方にとって良い年となるよう祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

地域交流会

11月11日に地域交流会を開催しました。今年は初の試みで対面とオンライン同時で、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所の方々に参加いただき、「コロナ禍の困りごと」というテーマでグループワークを行いました。

面会ができないこと、カンファレンスや自宅への訪問も制限され、患者様の状況把握や連携が取りづらいなど多くの意見があり、皆さん困難な状況の中で様々な工夫をしていることもわかりました。当院も少しずつですが面会やカンファレンス、退院前の介護指導などを再開しました。

今後も患者様、ご家族様はもちろんのこと、地域の方々にとって「困った時のロイヤル病院」となれるよう努力していきたいと思います。

（文/医療ソーシャルワーカー・林）